



西彼北小学校だより

かがやき



令和7年 8月 9日(土)
西海市立西彼北小学校
校長 長谷川 文也

平和は一人ひとりの心から

～長崎に生まれた私たちの使命～



①

101

196



②

8

196

毎年、子どもたちに出している平和に関する問題です。左の2つの分数はいったい何を表しているでしょう。ちなみに分母の『196』は『世界196か国』を表しています。

まず上の分数ですが、これは今日、長崎市で行われる平和祈念式典に参加予定の国の数です。**過去最多の101の国や地域**の代表がこの長崎の地に集い、平和への祈りを捧げます。つまり、8月9日は県民の祈りの日であるとともに、世界中の人々が、今一度平和な世界をつくることへの誓いを立てる特別な日だと言えます。

ただ、このことに反して、報道では毎日のように戦争の様子が映し出されます。それを象徴するのが下の分数です。これは終戦後、80年間に、小さな紛争を含め、他の国と戦争をしたことのない国の数です。**たった8か国**しかありません。(実はこの中に日本も含まれています。)

今、他の国で起こっている戦争がいつまた世界中を巻き込む大きな戦争に発展するかわかりません。そう考えると、強い危機感を抱かざるを得ません。被爆地・長崎に生まれた者にとって、平和の大切さを訴え続けていくこと、そして平和の実現のために具体的に行動していくことは大きな使命であると感じます。



平和の原点は、人の痛みがわかる心をもつこと

もう一度この言葉を胸に刻み、相手の悩みや苦しみにすばやく気づき、そっと寄り添えるやさしさをもった北小っ子を育てていきたいと強く思います。

かけがえのない命を守るために

交通事故、熱中症、自然災害、水難事故…。夏休みに入り、子どもたちが犠牲になる事件や事故に触れるたびに、心が痛みます。今一度、身の回りで起こるさまざまな危険に鋭いアンテナを張り、たった一つの大事な命を守ることができるよう、ご家庭でも注意喚起およびご指導をよろしくお願いいたします。



【自分の命は自分で守る】

夏休みも残り半分です。安全第一で、一日一日を計画的に過ごしましょう！

シリーズ学力⑪ ～自分の考えをもつ～

6年生を対象として今年4月に実施された全国学力・学習状況調査結果の概要が、7月末に公表されました。本校の結果について国語・算数共に言えることは、「**自分の考えを、根拠を明らかにして話したり書き表したりする力（表現力）**」に課題があるということです。（詳細については、次号以降の学校だよりで取り上げていく予定です。）

この課題に直面し、かつて参加した講演を思い出しました。講師は、テレビ等でもおなじみの教育学者：齋藤 孝 さんでした。



「人は、アウトプットしようと思わなければインプットしない」

逆に考えると、アウトプット（表現）の場を有効に位置づければ子どもたちは学んだことを自然とインプット（学習・理解）していくのではないかな…。そこで家庭でも学校でも、常にアウトプット（表現）の場を有効に位置づけながら、子どもとかかわり続ける夏休み、そして2学期にしていきたいと考えています。いくつか端的な例を挙げます。
家庭：「2学期の目標は決まったの？」→「なぜ、その目標にしたの？」→「その目標を達成するために、具体的にどんなことに取り組むの？」

学校：「平和集会を通して感じたことや考えたことについて感想文を書いてもらいます。だからどういう態度で集会に臨んだらよいか、よく考えて参加しましょう。」

このようにアウトプット（表現）の場を意図的に設けることで、子どもたちには根拠をもって自分の考えを表現する必然性やよい意味での緊張感が生まれます。こうした取組を根気強く継続していくのです。**どんな時も子どもに自分の考えを語らせるのです。**決して難しく考えなくてもよいと思います。例えば、映画を見た後にさりげなく「今の映画、どう思った？」「なるほど、よくわかるけど、何で感動したかももう少し詳しく話して。」「今度はどんな映画が見たい？」「それはどうして？」など。もちろん、私たちも授業を根本から見つめ直し、子どもが主体となる授業、一人ひとりが考えをもち、それを出し合いながら真実を探究していくような授業づくりが大事だと考えます。**自分の考えをもつという営みが、必ず子どもたちの「主体性」をはぐくむことにつながると信じています。**

クロームブックの活用について



先日、ある研修会に参加した時の講師の先生のお話が今でも頭から離れません。それは次の言葉です。「**子どもは、自分の『好き』を伸ばせていますか？**」さらに、次のように続けられました。「**子どもが自分の興味のあることをとことん探究していく上で、手元にある端末（クロームブック）は最大の武器となります！**」

さて、夏休みにおいて、クロームブックは有効に活用できているでしょうか？クロームブックは、鉛筆や定規と同じように、いつも身近にある「学習の道具」です。上述したように、自分が興味のあること、例えば、植物の観察記録に挑戦するなら、写真も撮れるし気付きも書けます。星座だって歴史だって、自分の知りたいことがとことん調べられるのです。また、学習したことを繰り返し練習してより確かな力を付けたい人は、「eライブラリ」などのAIドリルに主体的に取り組むこともたいへん効果的です。

クロームブックを使うこと自体が目的ではなく、自分の探究したいことを明らかにしていくために、そしてこれまで学んだことをより確かな力にしていくために、ぜひクロームブックを学習の道具として有効に活用する夏休みにしてほしいと願っています。

始めるのに遅すぎることはありません。「今、ここから」が大事です。